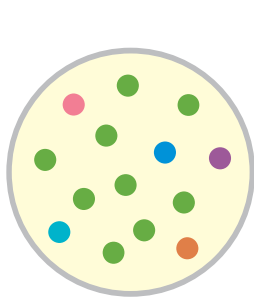


# インクルージョン(Inclusion)な社会の実現に向けて

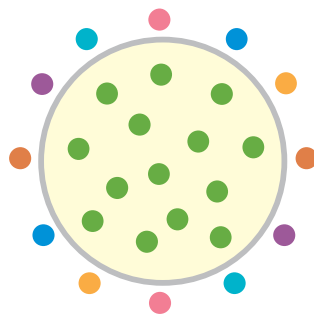
## 16. おわりに

社会には、老若男女、障がいがある人もない人もいます。国籍や民族が違う人もいます。セクシュアリティも人の数ほどあります。それらの人々が同じ「場」で支えあいながら共に生きていくことがインクルージョンです。下のイメージ図では数種類の色で人を表わしています。人は、それぞれに特徴と個性や課題を持ち合わせており、一人ひとりみな違います。その一人ひとりが、支えあって、協力し合って、そして分かち合って生きていく社会、それがインクルージョンな社会です。



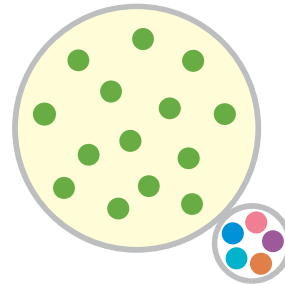
インクルージョン  
(共生共育)

みんな一緒だね



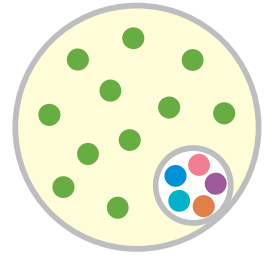
イクスクルージョン  
(排除)

あなたたちは  
いない



セパレーション  
(分離教育)

存在しても  
いいけど隔離ね



インテグレーション  
(統合教育)

中に入っても  
いいけど隔離ね

このような社会に向けて私たちが意識することは、現在、属性を理由にして生き方を制限されたり、差別を受ける可能性があり、不安を持ちながら日々の生活を送ったりする人たちがいることを知ることです。そして、その人たちにそんな思いをさせているのは「誰」なのかを考えることです。そこから見えるのは、それらを取り巻く多くの人たち(マジョリティ)の存在です。

インクルージョンな社会の実現において、生き方を制限されている・差別を受ける可能性がある・不安を持っている人たち(マイノリティ)が、何かを努力したり、勇気をだしたり、さらには我慢したりすることはインクルージョンではありません。マイノリティを取り巻く多くの人たち(マジョリティ)が、関心を持ち、自らの意識変革をしなければ、社会は変わりません。

“わたし”に何ができるのかを常に考え、

自らの意識・行動を見つめなおし、人とつながり合いながら、

誰もが安心して暮らせる社会づくりをしていきましょう。